

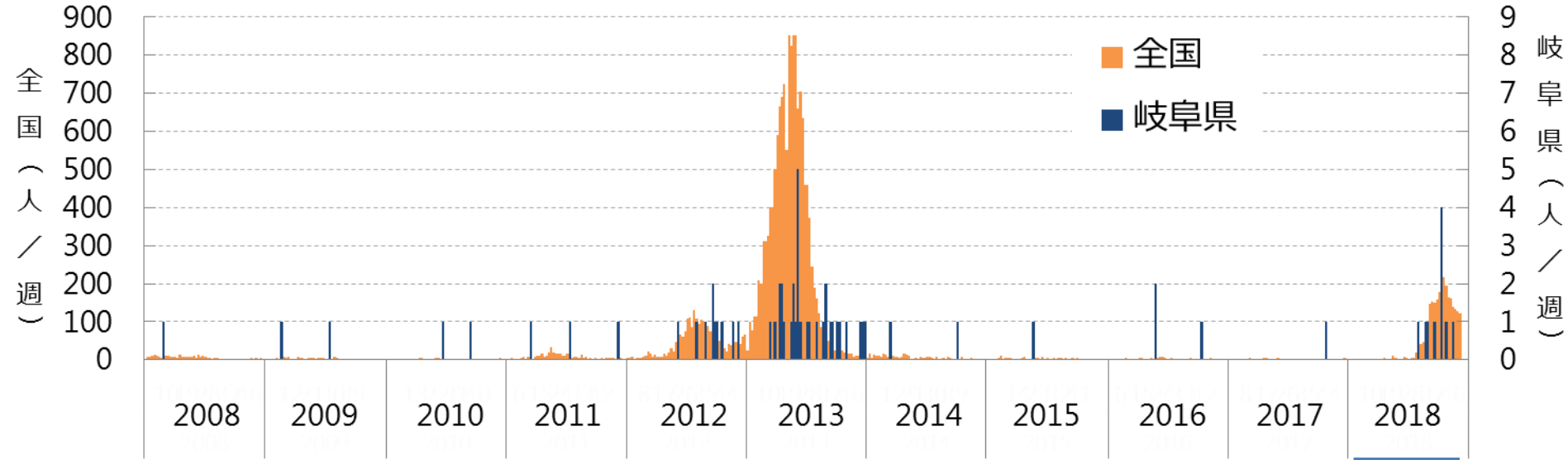
風しん・梅毒・百日咳・伝染性紅斑  
の発生状況等について  
～動向が注目される感染症～

2018.12.19

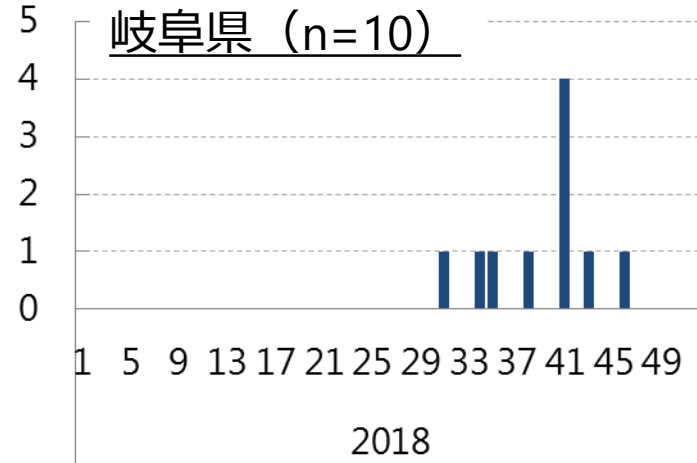
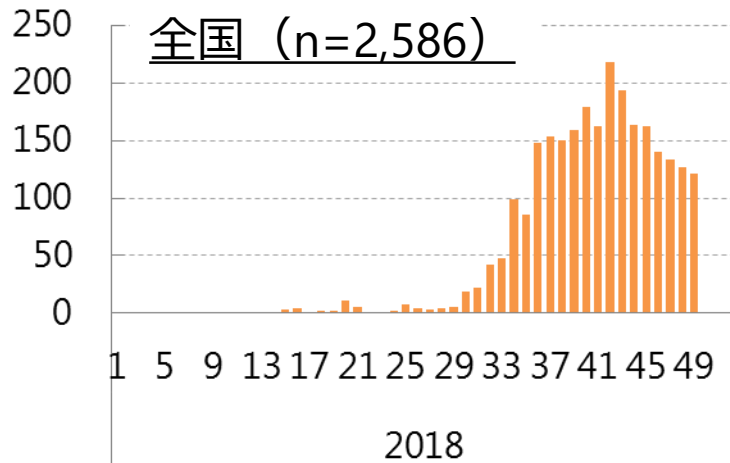
岐阜県保健環境研究所

# 風しん

## ◆ 患者報告数推移

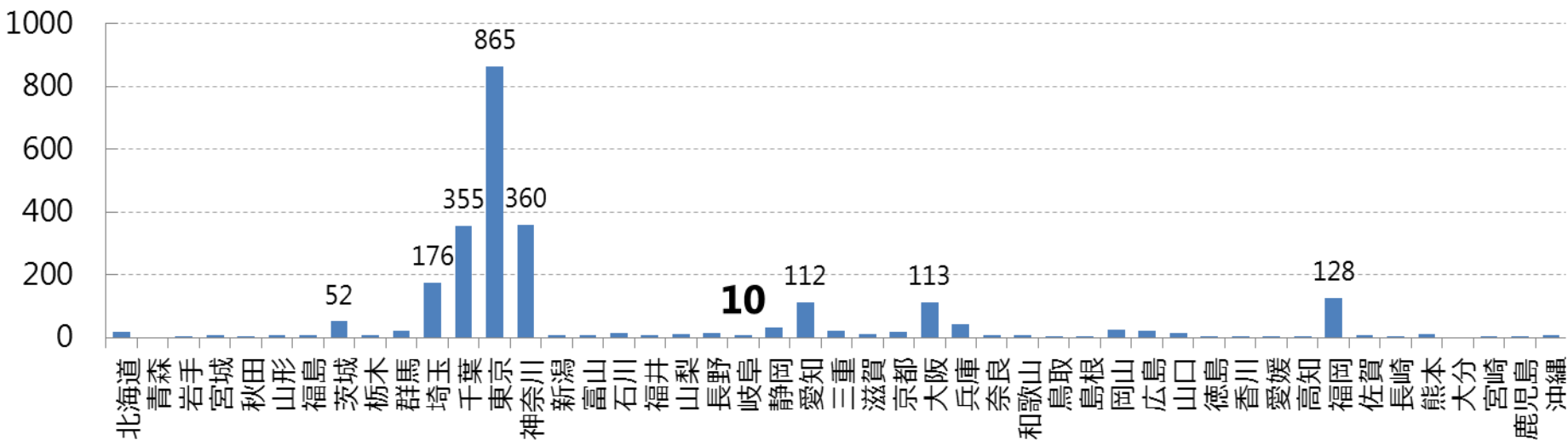


## ◆ 2018年1~49週

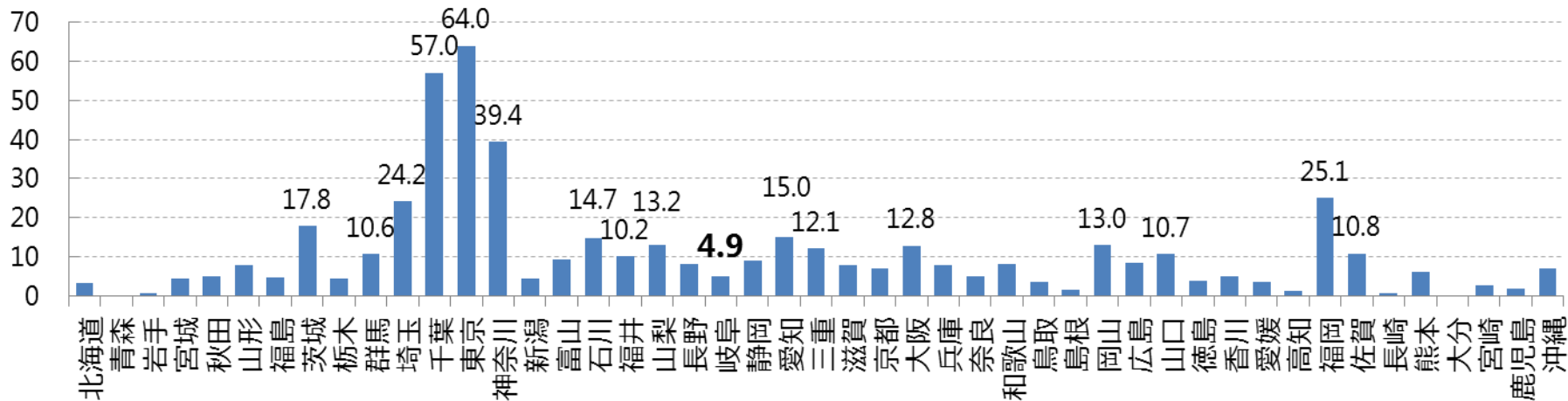


# ◆ 都道府県別患者報告数 (2018年1~49週)

## 報告数

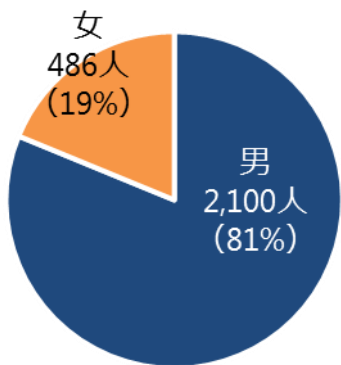


## 人口100万人当たり報告数

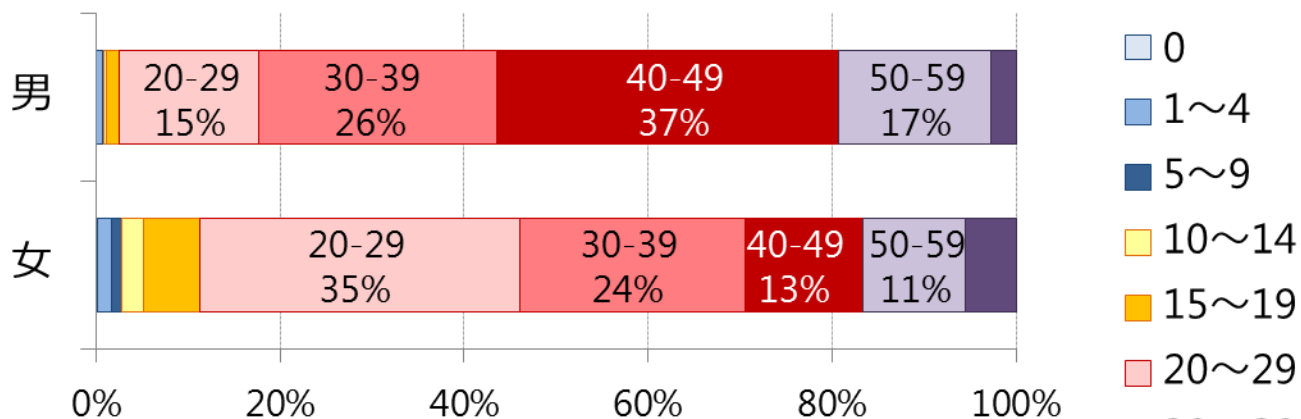


# ◆ 性・年齢群別患者割合 (2018年1~49週)

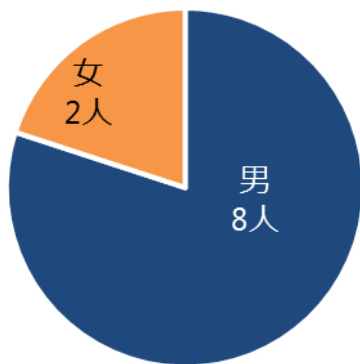
## 全国 (n=2,586)



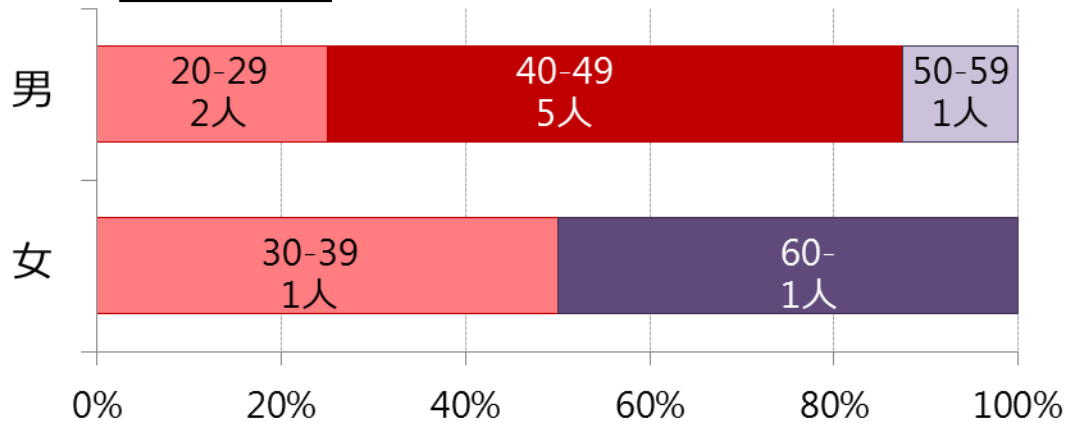
年齢群割合



## 岐阜県 (n=10)



年齢群割合



# 風しん

- 関東、愛知県では患者発生の多い状態が続いており、10月頃からは大阪、福岡でも患者の増加がみられている
- 県内では散発的な発生にとどまっている（2018年1～49週：10例）
- 2018年は49週時点において先天性風しん症候群の発生はない
- 前回の流行と同様に、患者は30～50歳代の男性に多い

## 県の対応

- 無料風しん抗体検査の対象者を30～50代の男性に拡大  
実施期間：2018年12月1日～2019年3月31日  
※従前の対象者：妊娠を希望する女性、風しん抗体価が低い妊婦と同居する家族など

## 国の対応

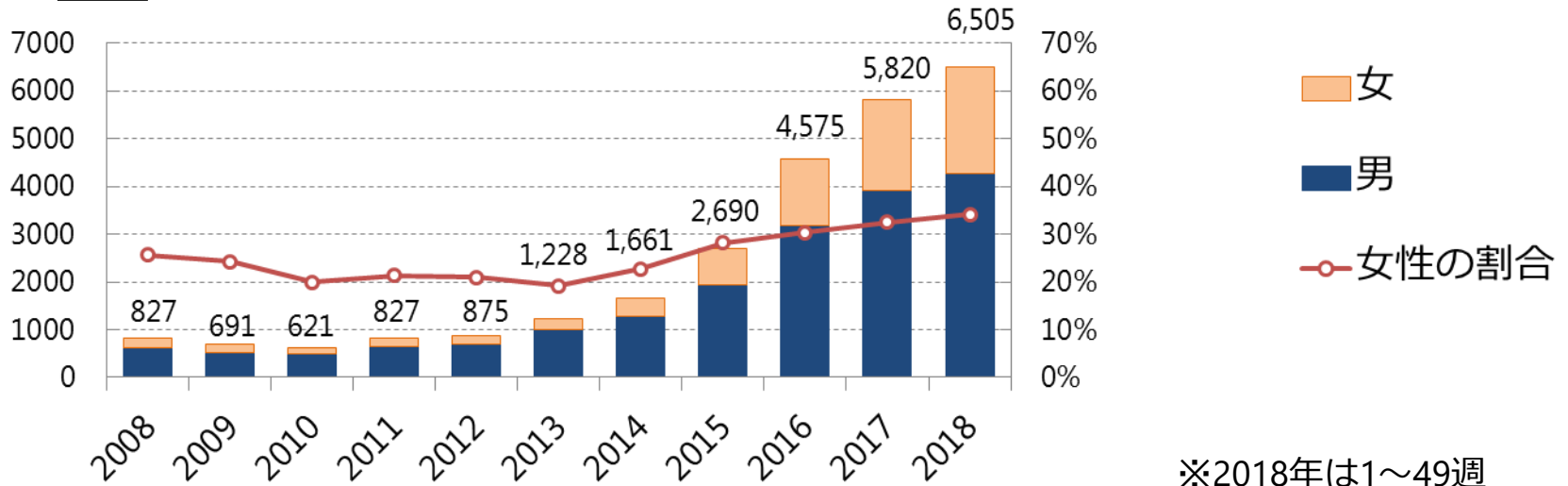
- 抗体保有率の低い世代に対する重点的な対応として、2019年以降、39～56歳の男性を風しん定期予防接種の対象とする方針

<参考> 第25回厚生科学審議会予防接種基本方針部会・第28回厚生科学審議会感染症部会  
(合同開催) 資料 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_02895.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02895.html)

# 梅毒

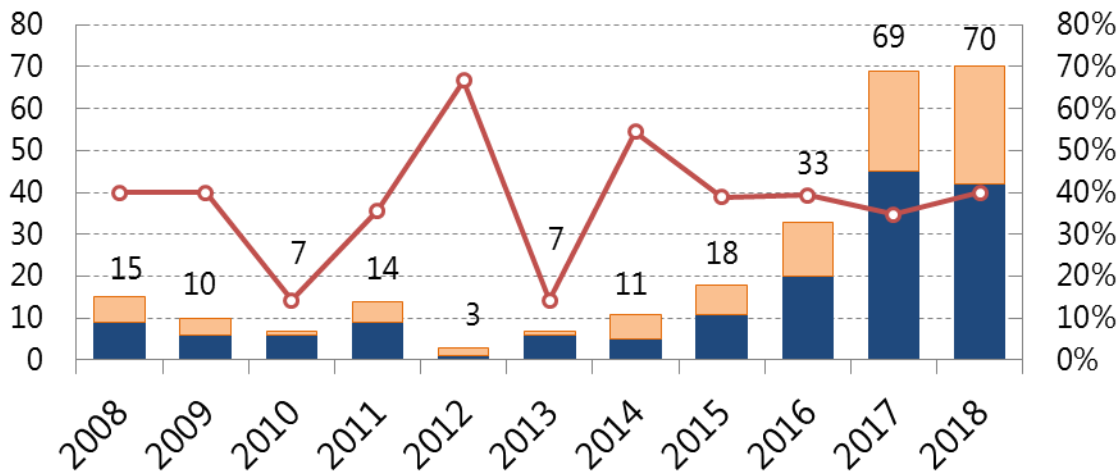
## ◆ 患者報告数推移

### 全国



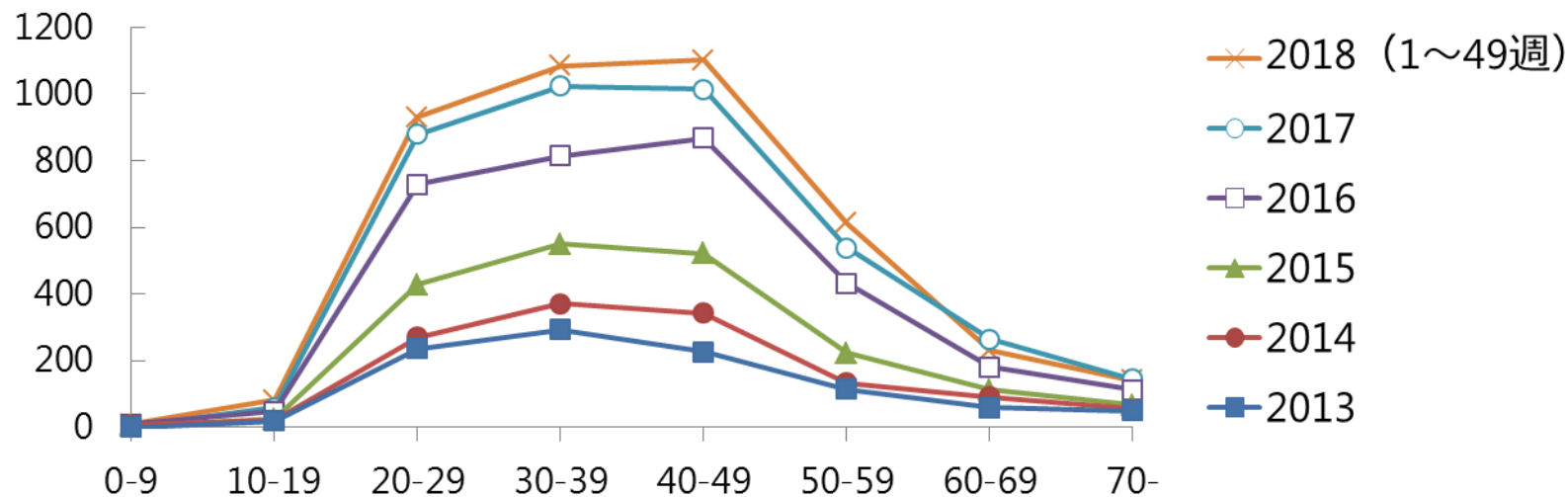
※2018年は1～49週

### 岐阜県

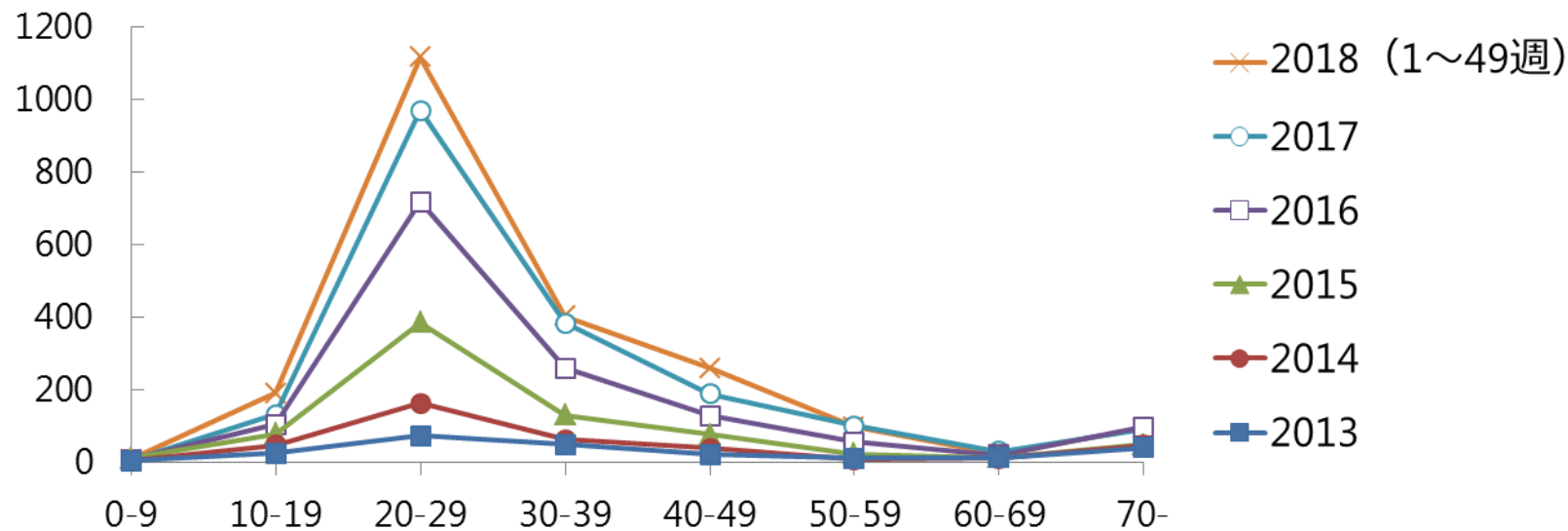


# ◆ 性・年齢群別患者報告数（全国）

男

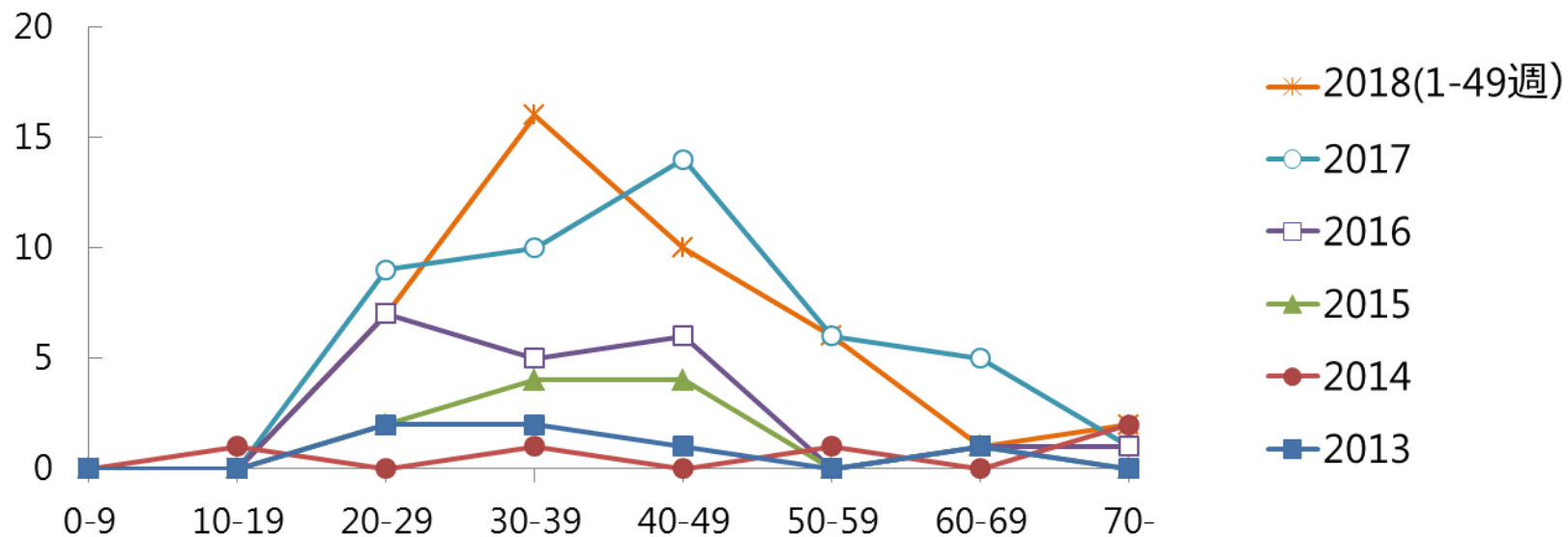


女

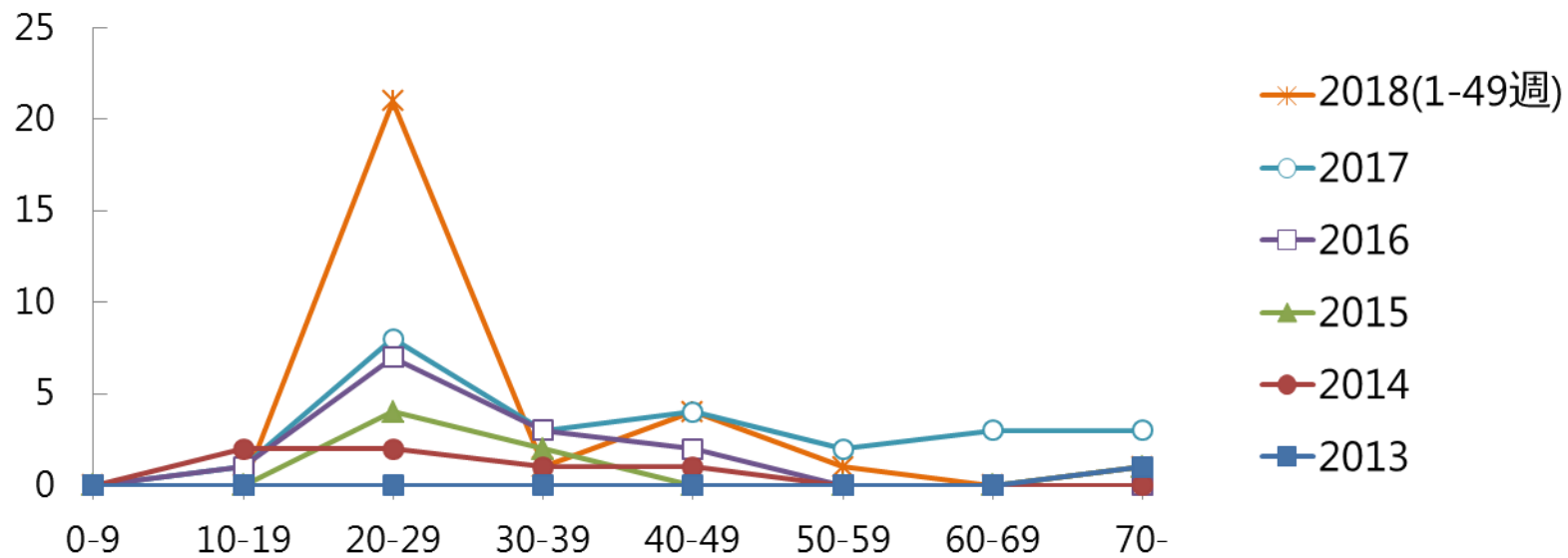


◆ 性・年齢群別患者報告数（岐阜県）

男



女





# 梅毒

- 2018年の患者報告数は、49週時点で全国・県内ともに前年を少し上回っている
- 近年の傾向と同様に、男性は20～40代、女性は20代に多い
- 異性間の性的接触による感染が多いが、増加の原因は明らかとなっていない

→ 2019年1月1日から届出事項の追加（届出票の変更）

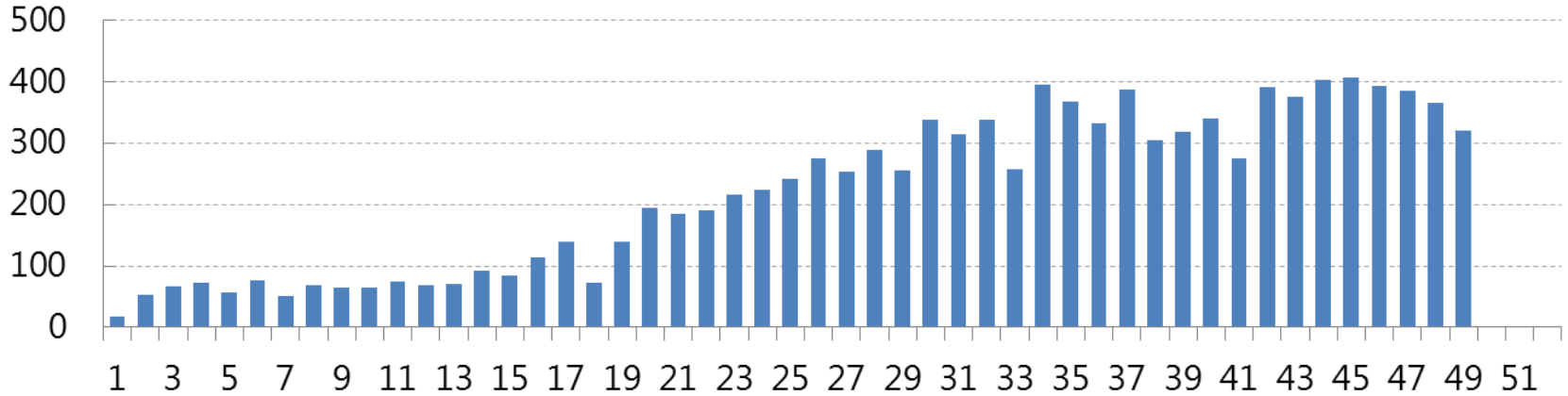
## <追加事項>

- ・ 風俗の従事歴・利用歴
- ・ 妊娠の有無
- ・ 口腔咽頭病変
- ・ 梅毒の既往歴の有無
- ・ HIV感染症の合併の有無

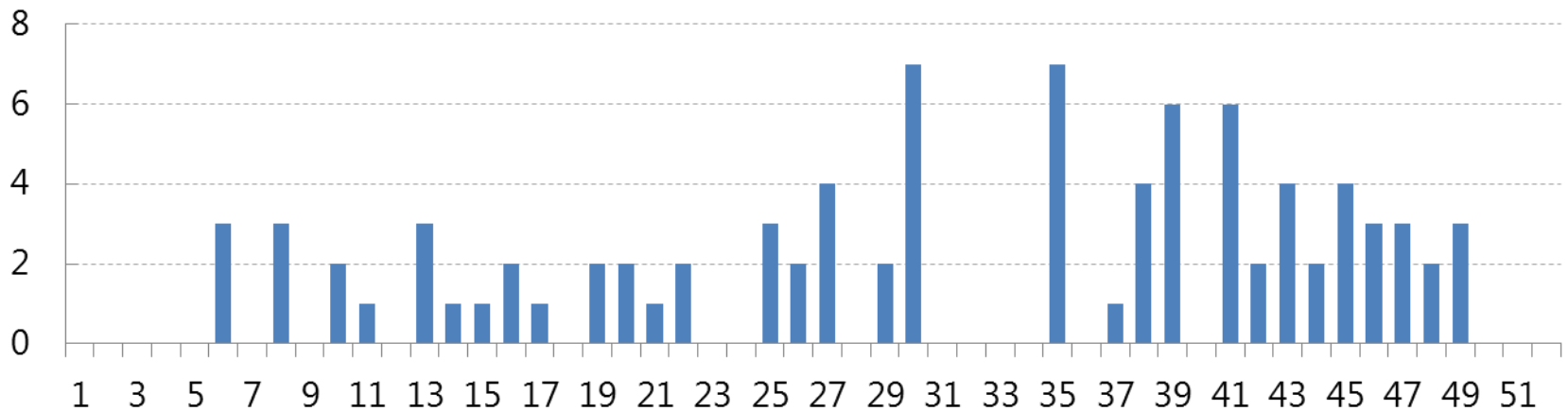
# 百日咳

## ◆ 患者報告数推移 (2018年1~49週)

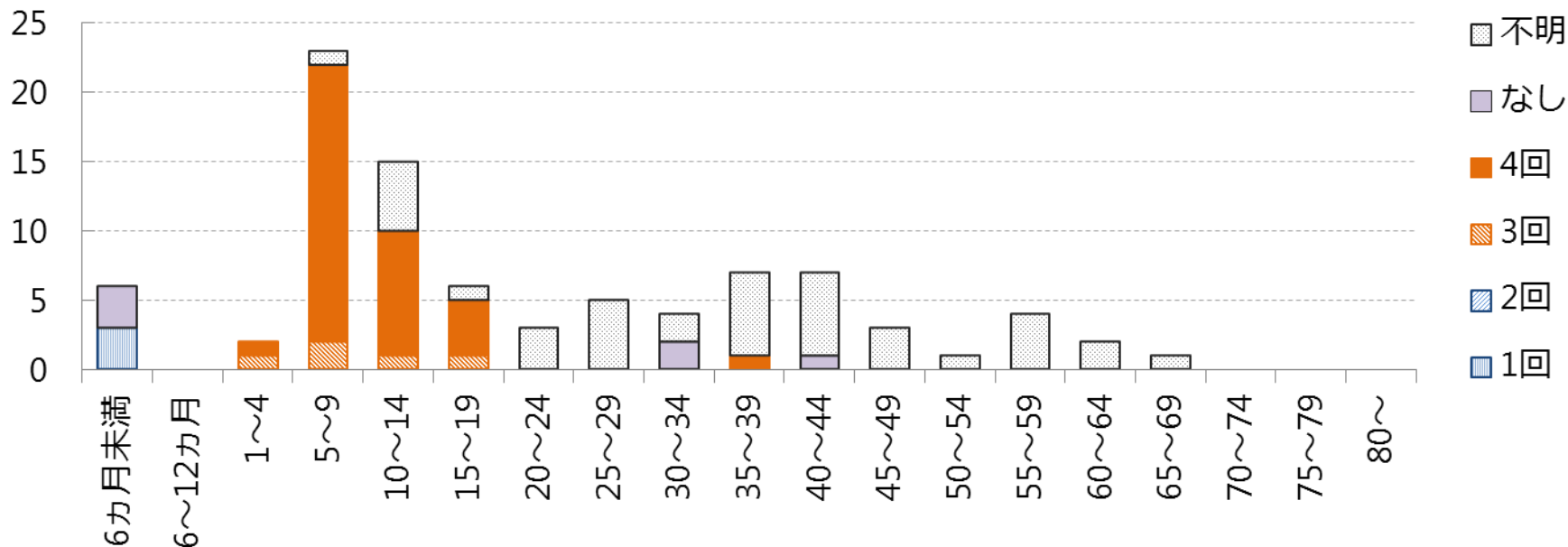
全国 (n=10,782)



岐阜県 (n=89)



◆ 年齢群・予防接種歴別患者報告数（岐阜県、2018年1～49週、n=89）



- 全体の39%が4回のDPT接種歴あり（5～14歳に限定すると76%）

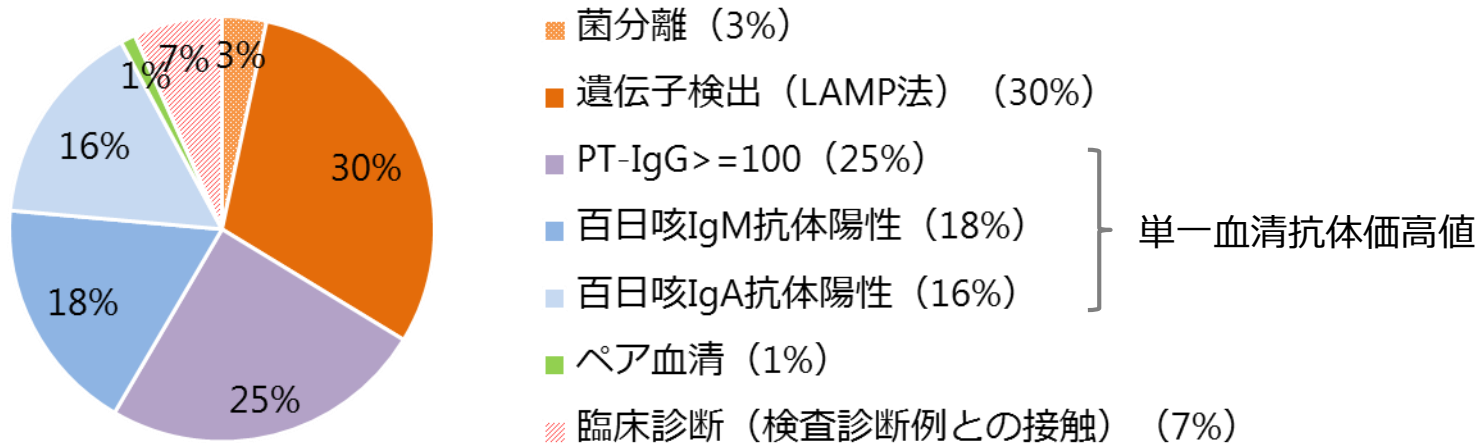
全国（2018年1～39週）

- 6カ月未満、5～15歳（7歳がピーク）、30～40代に患者の集積あり
- 全体の58%が4回のDPT接種歴あり（5～15歳に限定すると79%）

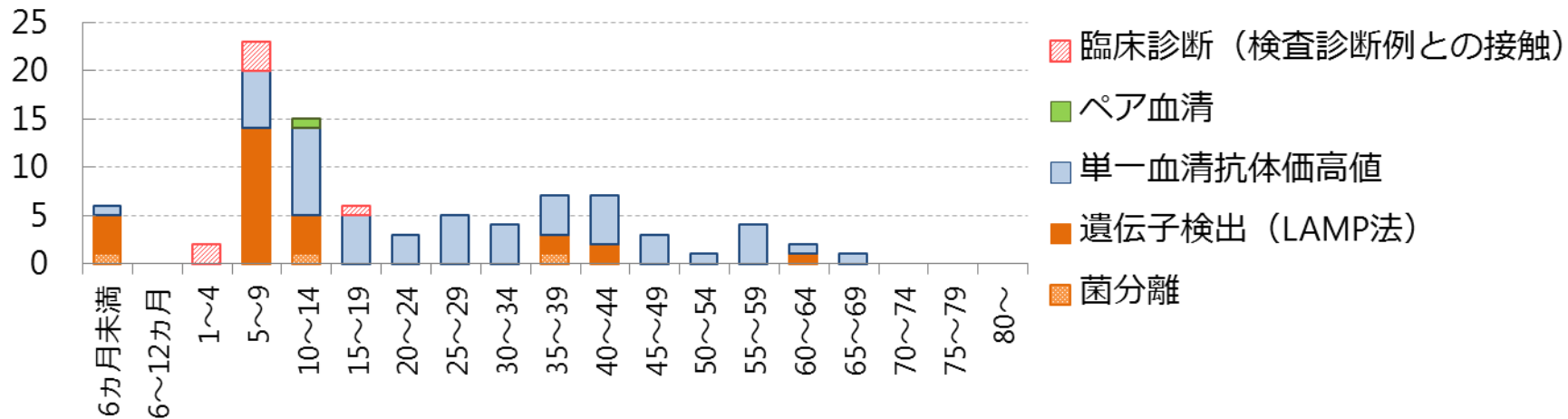
<参考> 2018年第1週から第39週までにNESIDに報告された百日咳患者のまとめ

国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis-181108.pdf>

◆ 診断方法内訳（岐阜県、2018年1～49週、n=89）



年齢群別



全国（2018年1～39週） 遺伝子検出が51%、単一血清抗体価高値が42%

<参考> 2018年第1週から第39週までにNESIDに報告された百日咳患者のまとめ

国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis-181108.pdf>

# 百日咳

- 全数サーベイランスにより、国内の疫学情報が明らかになりつつある
- 国において百日咳含有ワクチンの追加接種の必要性について議論が行われているが、適切な追加接種の時期（就学前 or DT2期 or その他）等を議論するにあたり、より正確な疫学情報を把握するためデータのさらなる蓄積が必要とされている
- 引き続き、届出ガイドラインに基づき、全国で統一した基準で疫学情報を収集する必要がある

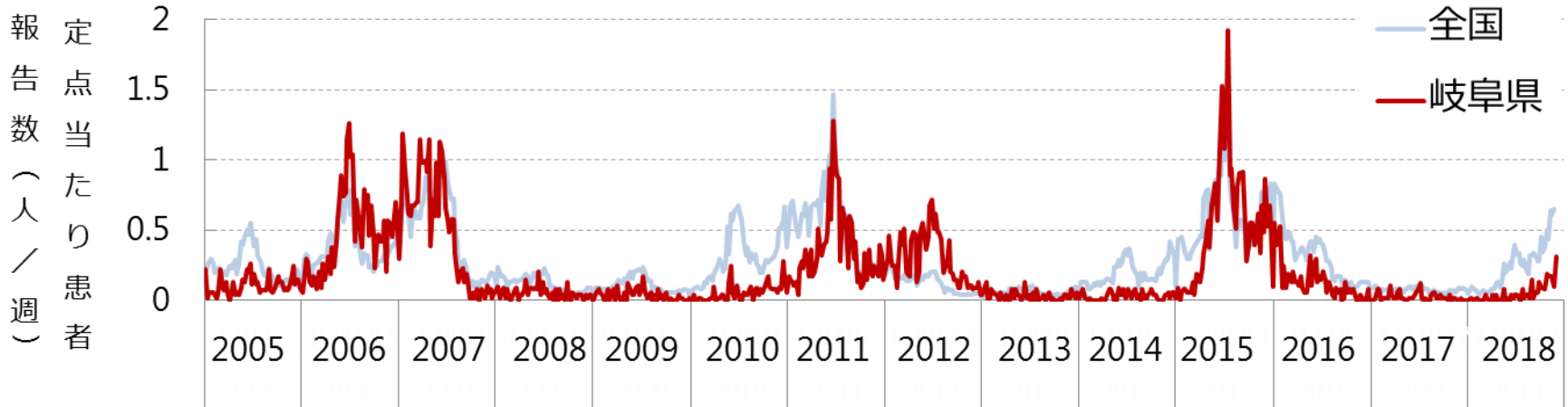
<参考> 百日咳感染症法に基づく医師届出ガイドライン（初版）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-%E3%80%80guideline-180425.html>

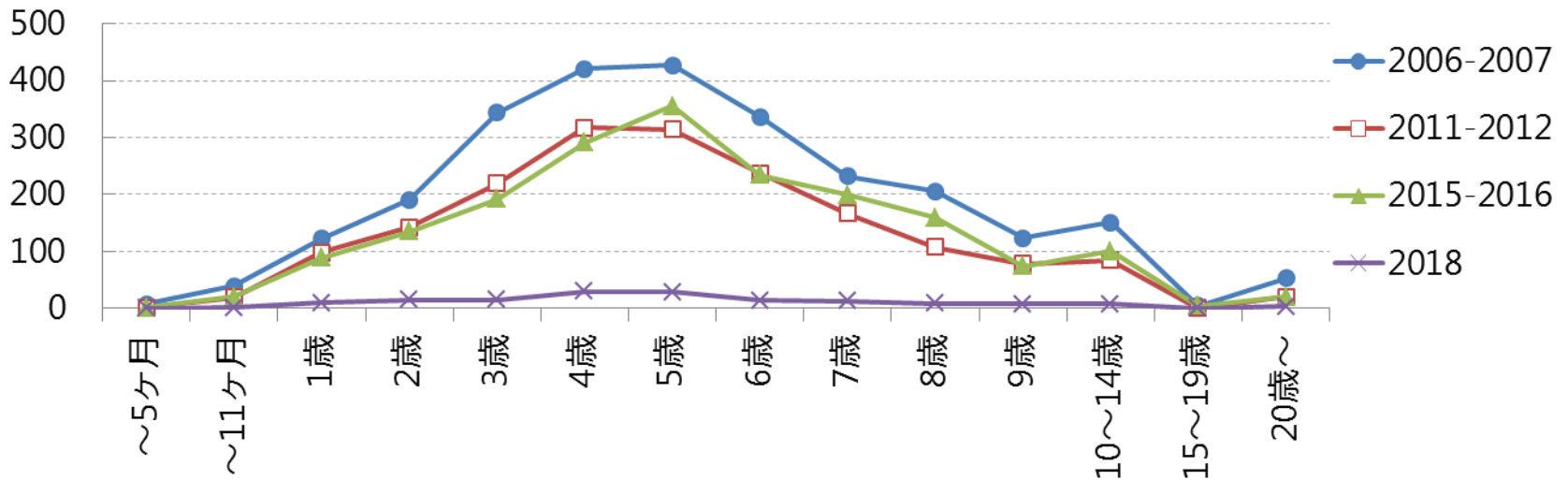
※届出ガイドラインは、保健所に届け出る基準を示したものであり、届出対象とならない百日咳症例もあり得ることに注意

# 伝染性紅斑

◆ 週別患者報告数（小児科定点 全国約3,000か所、岐阜県53か所）



◆ 流行期における年齢群別患者報告数（小児科定点 岐阜県53か所）



# 伝染性紅斑

- 国内では約4年の周期で流行がみられている
- 4～5歳を中心に幅広い年齢の小児に発症
- 妊婦の感染に注意が必要であるが、伝染性紅斑患者がウイルス血症をおこすのは症状出現の1週間ほど前であり、発疹が出現した時期には周囲への感染性はほぼないと考えられており、予防は容易ではない
- 過去の流行周期や現在の増加傾向から、今後の流行が予想され、動向に注意が必要